Panasonic

P-1 Grand Prix 2023

P-1

QOLリフォームよりすぐり ①

広告

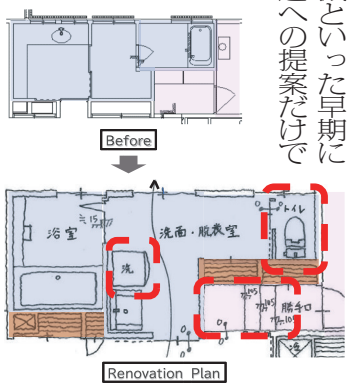
『終の棲家』

――できなくなってしまったことを出来るように
今できることをこれからもつづけられるように
これからしたいことが出来るように

「P-1グランプリ」。それはリフォーム実績年間2万件以上を誇るパナソニックエイジフリーの社員が、「プランナーとしての人間力」「プランニング力」「プレゼン力」を競い合う、年に1度の社内コンテストだ。2024年1月23日に第23回が開催され、パナソニックエイジフリー中部営業部中部リフォーム課の中田勝英さんが発表した『終の棲家』が銀賞を受賞。80歳代で要介護1の夫（Tさん）と要支援2の妻（Yさん）が60年近く暮らし続けてきた木造2階建ての自宅を、夫婦そろってこれからも快適に過ごすためにリフォームを手がけたものだ。

Tさんは筋力低下により歩幅が小さく、浴槽への出入りと、大きな段差の上がり下がり、屋外での自力歩行に見守りや介助が必要な状態。家屋面積も広いため、特にリビングからトイレまでの移動と、デイサービスの送迎車に乗り降りするまでの移動には、見守り介助を行う妻のYさんの負担が大きかった。屋外への移動用に手すりを付けてほしいというのが最初の依頼だった。

手すりの設置から1カ月後、想像以上に生活が楽になったTさん夫婦から、今度は屋内全般のリフォームを依頼された。プランナーの中田さんはそれぞれの困りごとや要望を丹念に聞き取り、各部屋の課題を洗い出していった。そして、歩幅が小さく体の向きを変えることが難しいTさんの転倒防止や、段差がなく滑りにくい環境に配慮した浴室、洗濯物を物干し場まで運ぶYさんの膝の負担軽減といった早期に改善が必要な課題への提案だけでなく、将来的にTさんが車いす使用の生活になった場合も想定したプランを提示。さらに、夫婦が生きがいとしていることを続けられるようにする長期目標も設定した。別宅で暮らす娘さんからの要望も踏まえつつ、最終的には1回の工事で将来にわたってTさん夫婦が安心・安全に暮らし続けられるよう、最も滞在時間が長いリビングを中心に、動線が短く、効率的に移動できるようにするプランとした。



リフォーム後、Tさんは入浴やトイレへの移動が自立し、Yさんの膝の負担も軽減されるなど2人のADLは目に見えて改善した。1カ月後のモニタリングでは「これからの大切な時間を妻と楽しく過ごせそうです」（Tさん）、「こんなに気持ちが嬉しくなるとは思いませんでした」（Yさん）と、喜びの声が。中田さんはこの事例を通じて「最初に設置した手すりが意欲向上のきっかけになり、ADLが改善しただけでなく、お2人のQOLも向上したと感じた」と考察した。

パナソニックエイジフリーの松元崇専務取締役は「お客様が自分でできることが増えると、次にやりたいことが見つかることが分かる良い事例だった。人の介助が不要で自分の意思でできることが増えるのが住宅改修のメリット。さらに、当社のプランナーは、今と将来の身体状況、家屋状況など長い目線で最初の打ち合わせから、完工、その後のフォローまでしっかり対応する。これがパナソニックエイジフリーショップだからこその価値」と講評。今後もお客様のこれからの生活に寄り添った「QOLリフォーム」を提案してほしいと話した。

改修後

改修前

Nursing Care Products by Panasonic

くらしの中で「できる」ことを増やし、そして、次に「やりたい」ことに
向かっていただきたい、そんな思いをシンボルマークにしました。
パナソニックの介護用品で「心身が前向きに、その先に歩みだす」。
私らしくいきいきとしたくらしを実現できる社会を創ること
それが私たちの存在意義です。

パナソニック エイジフリー
エイジフリーショップ
お問い合わせ先：営業企画部　06-6908-8122